

## 【案】

# 佐賀市立富士大和温泉病院 経営強化プラン 令和5年度

(地域医療構想に関わる部分の抜粋)

令和 年 月

佐賀市立富士大和温泉病院

### 3 経営強化プランの内容

#### (1) 役割・機能の最適化と連携の強化

##### ① 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

団塊の世代が全員後期高齢者となる令和 7(2025) 年を念頭に、病床の機能区分(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)ごとに医療需要と必要病床数を推計し、将来の医療提供体制の構築に向けた施策の方向性を示す「佐賀県地域医療構想」が平成 28 年 3 月に策定された。

構想では、佐賀県内を 5 つの構想区域に分割し、構想区域ごとに令和 7(2025) 年度における医療需要に対応すべき必要病床数が推計されている。

このうち、中部保健医療圏における病床機能報告病床数(2022 年度)と佐賀県地域医療構想における必要病床数(2025 年)とを比較すると、急性期病床が 957 床、慢性期病床が 270 床過剰となる一方、回復期病床については 288 床不足する見込みとなっている。

※ 中部保健医療圏における病床機能報告病床数(2022 年度)と佐賀県地域医療構想における必要病床数(2025 年)との比較

病床の機能区分	2022 年度 病床機能報告病床数	2025 年 必要病床数	差
高度急性期	303	372	△69
急性期	2,125	1,168	957
回復期	1,142	1,430	△288
慢性期	1,125	855	270
休床	245	—	—
計	4,940	3,825	870

出所:佐賀県「令和 4 年度病床機能報告の集計結果」

富士大和温泉病院は、佐賀県地域医療構想における5つの構想区域のうち中部構想区域に位置し、佐賀市の北部中山間地域において、採算性等の面から民間医療機関の立地が困難な過疎地において医療を提供している。

当院の日常診療圏である富士町、大和町(松梅地区)及び三瀬村は、佐賀市域の約半分の面積を占める一方で、人口は約 5,300 人(市全体の 2.3%)と非常に少数であり、非常に広い地域の非常に少数の人々を主な対象とした公立病院であると言える。また、中山間地の過疎地域に位置する地理的特性から、当院の診療圏内の高齢化率も非常に高くなっている。

このような地域において、当院は、一般外来やかかりつけ医機能を担う一次救急医療、救急告示病院としての救急患者受け入れや入院治療など、比較的専門性の高い患者を受け入れる二次救急医療としての機能・役割を担っている。

また、中長期的に入院患者を受け入れ、在宅復帰後も在宅療養を支援する機能や国民健康保険診療施設として保健、福祉サービスを包括して提供する機能も求められていることから、居宅介護支援事業や訪問看護、通所リハビリテーション等の地域ケア事業を実施するとともに、人間ドックや健康診断等の住民

の保健衛生に寄与する事業も積極的に実施している。

このようなことから、地域の拠点病院として、不採算地域における医療提供とともに、地域の人々に住み慣れた場所で最後まで生活していただくため、一定の保健・介護支援機能等を維持しながら、住民生活を支えていく役割を果たすものである。

➤病床機能毎の病床数

病床の機能区分	2022年度病床機能報告病床数	通常時
急性期	60床(うち地域包括ケア病床10床)	54床(うち地域包括ケア病床10床)
慢性期	38床	44床
計	98床	98床

※新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れに伴う一時的な措置として、令和2年12月1日付けて上記病床数に変更している。なお、通常時(平時)の病床数は右欄のとおりである。

なお、平成29年度、国の療養病床再編の議論の中で、医療療養病床(看護人員配置基準25:1)にあつては医療法上の人員配置基準等を緩和する経過措置の期限が令和5年度末(平成35年度末)までと延長とされたところである。

このことを受け、平成30年4月、当院が保有する医療療養病床については、すでに看護人員配置基準20:1に変更済みであるものの、未だ病床稼働率が大きく下がっているのが現状である。

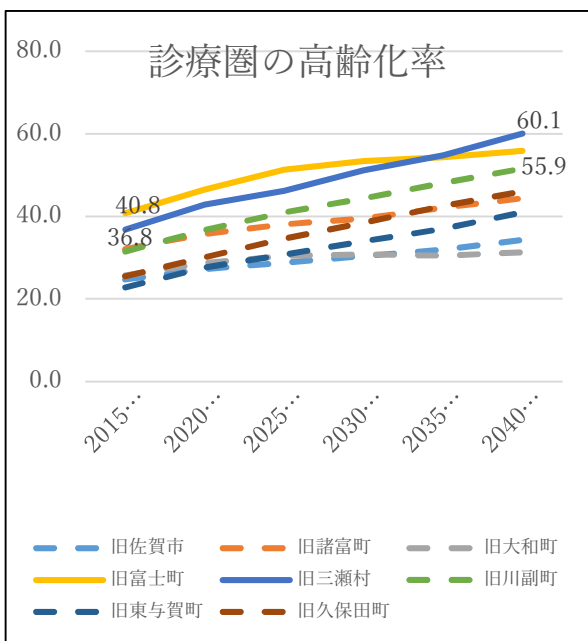
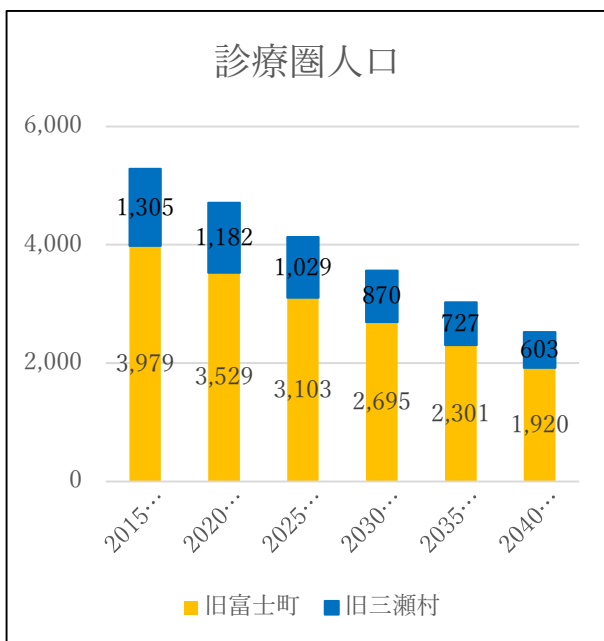
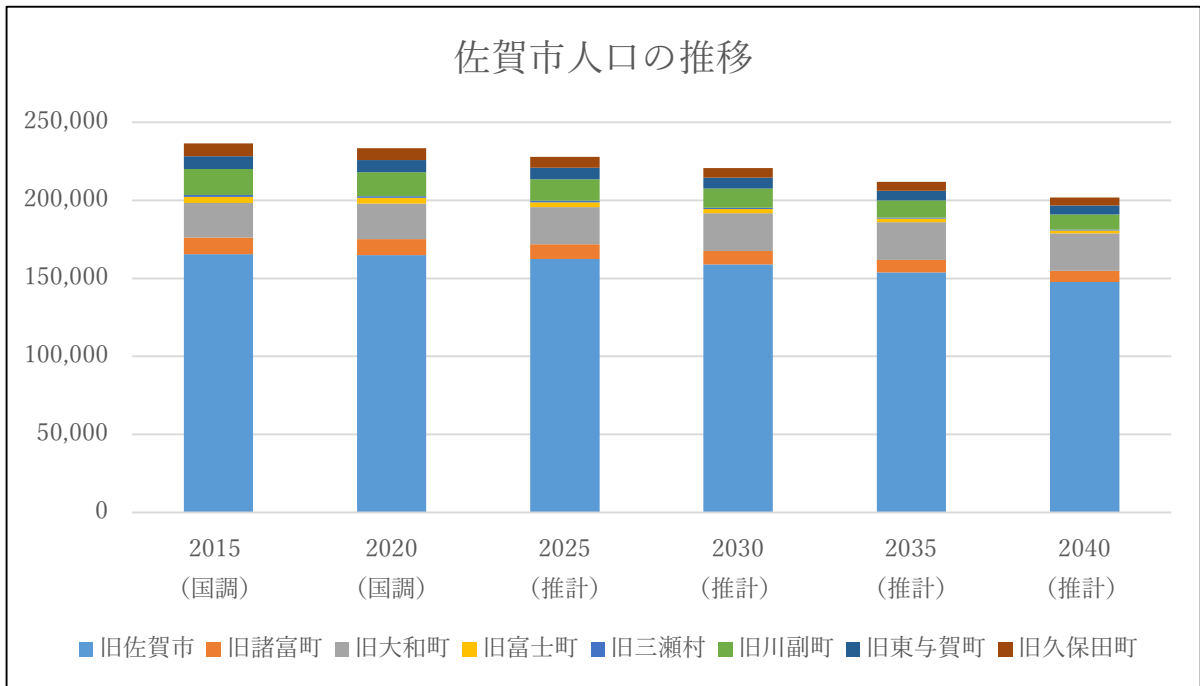
このため、前改革プランにおいては、今後の病床改変の方向性を検討していくこととしていたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け病床確保に取り組んだことで検討を中断していた。

そのようなことから、新型コロナウイルス感染症が5類感染症とされたことも踏まえ、病院経営の現況を改めて分析した上で、療養病床に入院する透析患者等の比較的医療度の高い患者への対応を考慮しつつ今後の病床改変の方向性について引き続き検討を進める。

佐賀市人口の推移\_佐賀市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(R5.3)による推計値 (人)

項目	2015 (国調)	2020 (国調)	2025 (推計)	2030 (推計)	2035 (推計)	2040 (推計)
旧佐賀市	165,465	164,919	162,475	158,927	153,850	147,734
旧諸富町	10,778	10,167	9,471	8,713	7,916	7,116
旧大和町	21,985	22,881	23,618	24,011	24,167	23,976
(うち松梅校区)	965	868	—	—	—	—
旧富士町	3,979	3,529	3,103	2,695	2,301	1,920
旧三瀬村	1,305	1,182	1,029	870	727	603
旧川副町	16,574	15,223	13,797	12,371	10,918	9,505
旧東与賀町	8,222	7,847	7,355	6,826	6,278	5,738
旧久保田町	8,064	7,553	6,961	6,353	5,730	5,127
合計	236,372	233,301	227,809	220,766	211,888	201,719

注) 推計した地域別の人口は小数点を四捨五入していることから、総数と一致しない場合がある



②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

当院は、佐賀市北部医療介護ネットワークに後方支援医療機関として登録されており、北部地域の医療機関や介護施設等との総合的な連携強化を図りながら地域包括ケアシステム構築の一役を担っている。

また、当院の日常診療圏では、一定の保健、医療、福祉サービスの提供施設として、近隣の医療、介護施設等と連携しながら、地域住民の退院支援や在宅支援を推進しているが、診療圏の高齢化率は一層高まっていく状況から、従来にも増して、より強固な連携体制を構築していく必要がある。

医療資源の少ない地域において、中核的病院としての位置づけを持つ当院にとって、患者を急性期から回復期、維持期へと繋げ、在宅生活を支援していくことは、今後これまで以上に求められる。更には、未病段階からの生活習慣病の予防支援も重要となる。当院では、これまで医療のみならず、保健、福祉の一体的な提供を行うことで、地域住民が安心して生活できる環境づくりを目指してきた。

「地域包括医療・ケア」の実践は、国民健康保険診療施設の理念とされており、この理念のもと、当院では健診、人間ドック等の生活習慣の予防事業の実施や介護保険サービス事業所を併設して在宅支援を行なうなど、医療だけでなく保健、福祉を包括したサービス提供に取り組んでいる。

中山間地という地域の特性上、医療・介護施設等の資源が不足する実態もあるため、一定の自院完結型の医療・福祉等のサービス提供体制を維持し、「地域包括医療・ケア」を実践していく。

### ③機能分化・連携強化

中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町の4市1町）には、三次救急医療を担う佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館のほか、二次救急医療を担う国立病院機構佐賀病院、地域医療機能推進機構佐賀中部病院、小城市民病院、多久市立病院といった公的病院が存在し、それぞれの医療機能を担っている。

このような中において、佐賀市北部中山間地域における医療資源は非常に乏しいながらも、それぞれが補完、連携しながら地域医療を堅持していくため、当院は以下の機能を備える病院を目指すものである。

- ・かかりつけ医等の初期医療を担う一次救急医療機関としての機能

- ・佐賀市北部中山間地域の基幹的な病院（CT、MRI等を保有する総合病院等）として、比較的専門性の高い領域を含めて、一般的な医療が概ね完結できる二次救急医療機関としての機能

- ・佐賀市北部中山間地域には、当院以外に国民健康保険診療所が1施設、民間病院が1施設、民間診療所が1施設存在している。これらの医療機関が、主に当院から北部15km圏域に点在することを踏まえた地域の拠点病院としての機能

- ・より高度で専門性の高い医療について、佐賀大学医学部附属病院や佐賀県医療センター好生館などと密に連携する機能

- ・平成24年4月から当院内に設置する佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センターにおける総合内科医の育成をはじめ、佐賀大学医学部の卒業臨床研修や佐賀市医師会立看護専門学校等からの学生受け入れなど、医師、看護師、コメディカル職の人材育成機関としての機能

- ・健康診断や予防接種などの保健予防活動、介護事業所の併設による在宅支援など保健・福祉サービスの提供施設としての機能

### (4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

地域医療の拠点としての役割を果たすため、保有する医療資源を有効活用しながら地域医療提供体

制を堅持していく。

①医療機能・質に係るもの

項目	R2(実績)	R3(実績)	R4(実績)	R5(見込)	R6(目標)
救急車による患者数	134	140	156	156	170
健康診断件数	1,376	1,020	1,103	1,198	1,250
訪問看護件数	2,603	2,151	2,122	2,220	2,280
居宅介護支援件数	1,150	1,355	1,383	1,392	1,400
在宅復帰率(%)	82.3	79.5	76.0	78.7	80.0

②連携の強化等に係るもの

項目	R2(実績)	R3(実績)	R4(実績)	R5(見込)	R6(目標)
紹介患者数	381	474	493	346	400
逆紹介患者数	420	410	476	514	550